

五島中央病院紀要

第 25 号



長崎県五島中央病院

目 次

1. 巻 頭 言 院長 竹島 史直	1
2. 令和 4 年度診療科別業績集他	3
1) 内科	4
2) 外科	5
3. 2022年内科入院患者数	6
4. 2022年精神科新来患者統計	8
5. 令和 4 年度診療業務実績	10
6. 各診療科別年間手術症例数	12
7. 救急患者搬送一覧	14
8. 令和 4 年度抗菌剤（注射薬）及び主要消毒薬使用概況	16
9. 当院の微生物検査の動向	23
10. 投稿規定	29

巻 頭 言

令和2年4月より病院長として赴任致しました竹島史直と申します。赴任以来早くも4年が過ぎ去ろうとしています。振り返りますと長崎県で初の新型コロナウイルス感染症患者が確認されたのは、令和2年3月14日でした。赴任の2週間前であり、強い緊張を感じたことを今でも覚えています。以来、その戦いは3年以上に及びます。当院では、当初5階北病棟を休棟としてコロナ患者専用の病棟として運用してきました。同病棟のスタッフを主に5階南およびその他の部署に配置し、陽性患者さんが出ると各部署より招集して患者さんを診る体制を継続してきました。しかしながら、看護師数の不足などより、令和5年1月からは3階南病棟機能（50床）を5階北病棟へ移行し一般病棟40床、結核病床をコロナ病床10床として運営することと変更しました。令和5年5月8日、本ウイルス感染症が5類に再分類されてからは、すべての病棟でコロナ患者を診る体制へと移行し現在に至ります。幸い、流行の波は、第9波を最後に落ち着いています（令和5年12月1日現在）が、本ウイルスの病原性に大きな変化はなく、我々医療従事者は、ウイズコロナを継承しつつ、ポストコロナへ向けて活発に動き出した人々を今後も後方より支え続けなければなりません。

現在、当院が抱える大きな課題は、看護師不足解消と入院患者数回復にあります。コロナ禍における医療スタッフの離職は多くの医療施設での問題となっており、日本医労連の実態調査結果によると公的病院において離職者数15人以上の施設は3割を超えているとの報告もあります。昨年顕著だった当院における離職者数の増加も今年になりようやく歯止めがかかりましたが、新たな入職者数の増加にはつながらず、慢性的な看護師不足が続いています。対策の1つとして採用面接の際に希望の多かった2交替制を5階北病棟に試験的に導入しました。現場のスタッフからも好評であり、その他の病棟への導入も検討中です。また、五島高校からの進学者の多い看護学校や派遣会社への働きかけを強化して新規採用者の新たな獲得にも努めています。

当院の本年度上半期一日平均入院患者数は、昨年の90%を下回っています。コロナ禍における診療控えが緩和することにより多くの病院施設で患者数の回復が見られる中、当院の現状は、病院経営を考える上では残念な結果です。原因としては、本年前半2度の院内クラスター発生により診療制限を行ったこと、平均在院日数の短縮が見られること、受診患者の島外への流出などが考えられます。在院日数の短縮は、内科系病床40床、外科系病床10床の休床が医師やスタッフに早期退院を潜在的に促していた可能性を考えています。島外への患者流出に関しては、今後の検証が必要ですが、そうだとすれば、コロナ対応に追われた医師、スタッフの患者サービスの低下による可能性もあり、接遇面も含めた今後の改善が必要と考えます。

令和5年3月末、医療局長として当院を長年支えてくださった福嶋伸良医師が退職されました。明るく、誠実な人柄と先を見据える洞察力の持ち主で私も大変頼りにしていました。本当にありがとうございました。後任は、温厚な人柄で医局の生き字引ともいえる今西大介医師に引き受けていただきました。医局員からの信頼の厚い先生は適任と考えています。また同時期に1階の旧売店跡に地域連携室を新設

いたしました。地域連携室は、患者さんの診療において当院と五島市内外の病院や診療所とをつなぐ本院の最も重要な部署の1つです。これまでは医事課と同じ室内にあり、手狭であることやご相談のしづらい環境でご迷惑をおかけしておりましたが、患者さんやスタッフより好評を頂いています。5月には、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、認定を受けました。職員はコロナ対応で多忙の中、一丸となって準備を行い、再審査なく1回の審査で認定されました。皆の努力の賜物と感謝しています。8月には、私の赴任以降初めて医局員全員による懇親会を行いました。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、職員の外での飲食を制限してきましたが、職務を離れての交流の大切さを再認識しました。状況が許せば、病院全職員でこのような機会が出来ればと考えています。また今年度は5名の初期研修医が当院で研修中であり、来年度も3名の研修が内定しています。今後も研修指導責任者の今西大介先生を中心に新しい力を育てていきたいと思っています。

さて、今年の干支は甲辰（きのえたつ）にあたります。甲は物事の始まりやまっすぐに堂々と立つ大木、辰は発芽した植物がしっかりとした形となる、大自然の躍動、成功などの意味があります。成功を積み上げて芽が成長し大木に育つような素晴らしい健康な一年になることをお祈り申し上げます。これからも五島市民の皆様や地域医療機関の先生方のご要望に応えられるように微力ながら精一杯頑張ってまいりますので、今後のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

院 長 竹 島 史 直

五島中央病院業績集

令和4年度業績集

1. 内科

【論文発表】

1. : Yamamoto H, Takeshima F, Haraguchi M, Akazawa Y, Matsushima K, Kitayama M, Ogihara K, Tabuchi M, Hashiguchi K, Yamaguchi N, Miyaaki H, Kondo H, Nakao K. High serum concentrations of growth differentiation factor-15 and their association with Crohn's disease and a low skeletal muscle index. Sci Rep. 2022 Apr 21; 12(1):6591.
1. 井上 知晃、福嶋 伸良、今西 大介、馬渡 将語、柴田 雅士、欽塚 磨呂、藤野 亮太、東郷 政明、鹿毛 政義、竹島 史直、中尾 一彦 成人T細胞白血病リンパ腫の肝浸潤にステロイドが奏功した1例 臨牀と研究 (0021-4965) 99巻10号 Page1263-1266 (2022. 10)
2. 花村 衣咲、野中 文陽、上条 将史、竹島 史直、前田 隆浩 COVID-19感染拡大に伴う緊急事態宣言が糖尿病患者の生活習慣と血糖コントロールに及ぼす影響 糖尿病 (0021-437X) 66巻2号 Page129-138 (2023. 02)

【学会発表】

1. 下河 舞子、露木 智久、山下 由恵、高木 博人、野中 文陽、牟田 久美子、西野 友哉 妊娠を契機にプロピルチオウラシルへ変更し発症したPR3-ANCAとMPOANCAがともに陽性の急速進行性糸球体腎炎1例 第52回日本腎臓学会西部学術大会 (2022. 10. 18-19 熊本城ホール)
2. 井上 知晃、高木 博人、露木 智久、竹島 史直、西野 友哉 高カルシウム血症および抗菌薬関連脳症の関与が疑われた腹膜透析患者の意識障害の1例 第28回腹膜透析研究会学術集会・総会 (2022. 11. 26-27 岡山コンベンションホール)
3. 露木 智久、桑田 亮、高木 博人、今西 大介、竹島 史直、牟田 久美子、西野 友哉 治療抵抗性高カルシウム血症に対しRANKL製剤および血液透析併用下で化学療法を導入した成人ヒトT細胞白血病／リンパ腫の一例 第54回九州人工透析研究会総会 (2022. 12. 11 沖縄コンベンションセンター)
4. 高木 博人、野中 文陽、露木 智久、竹島 史直、西野 友哉 デュラグルチド継続投与症例の注射手技の評価および指導についての調査研究 第60回日本糖尿病学会九州地方会 (2022. 10. 07-08 福岡国際会議場)
5. 池谷 美希、露木 智久、高木 博人、野中 文陽、牟田 久美子、西野 友哉 超高齢抗IA-2抗体単独陽性の緩徐進行1型糖尿病と診断し得た1例 第60回日本糖尿病学会九州地方会 (2022. 10. 07-08 福岡国際会議場)
6. 増田 岳、高木 博人、露木 智久、竹島 史直、西野 友哉 レボフロキサシン投与後に両側アキレス腱炎を発症した血液透析患者の一例 第49回長崎県人工透析研究会 (2023. 02. 19 アルカス SASEBO)
7. 高木 博人、露木 智久、荒木 杏平、竹島 史直、西野 友哉 VAIVT中の血管損傷に対してバルーン拡張継続下でシャント閉鎖術に移行した1例 第49回長崎県人工透析研究会 (2023. 02. 19 アルカス SASEBO)
8. 馬渡 将語、福嶋 伸良、柴田 雅士、池谷 千章、伊藤 裕也、東郷 政明、竹島 史直、鹿毛 政義、中尾 一 自己免疫性肝炎のフォローアップ中に発症した肝サルコイドーシスの1例 第120回日本消化器病学会九州支部例会 (2022. 12. 2-3 熊本市)

9. 鉾塚 磨呂、東郷 政明、藤野 亮太、福岡 伸良、竹島 史直 典型的画像所見を呈したエルシニア腸炎の一例
第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（2022. 12. 2 - 3 熊本市）

2. 外 科

学 会

- 1) 第84回日本臨床外科学会総会 福岡 2022/11/26
周術期リスクの高い急性胆嚢炎として PTGBD を検討した胆嚢捻転症の1例
古賀 洋一、北島 正親、井上 啓爾
- 2) 第122回日本外科学会総会 熊本 2022/4/16
腹腔鏡下胃全摘術後の横隔膜ヘルニアとピーターセンヘルニアにより絞扼性腸閉塞を来した一例
井上 知晃、福本 将之、北島 正親、井上 啓爾
- 3) 第122回日本外科学会総会 熊本 2022/4/16
ローカル5G導入に向けた離島医療圏における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術遠隔サポートの実証研究(会議録)
福本 将之、井上 啓爾、古賀 洋一、北島 正親、小林 慎一郎、進 誠也、永田 康浩、江口 晋
- 4) 第122回日本外科学会総会 熊本 2022/4/16
離島における外科的救急疾患ヘリコプター搬送症例の検討(会議録)
井上 啓爾、北島 正親、福本 将之

【司 会】

第84回日本臨床外科学会総会 福岡 2022/11/27

一般演題：地域医療2 井上 啓爾

令和4年度 五島中央病院オープンカンファレンス 開催実績表

場所：長崎県五島中央病院 講義室

回	開催日	演 題	講 師	参加者数		
				院内	院外	計
第146回	8月23日(火)	生活習慣病について	五島中央病院 腎臓内科 高木 博人 先生	35	22	57
第147回	2月21日(火)	認知症看護・介護の基本姿勢 ～カンファォータブル・ケア～	訪問看護ステーションいしずえ長崎 所長 精神科認定看護師・保健師 若浦 雄也 先生	18	60	78
計				53	82	135

令和4年 内科入院患者（令和4年1月～12月）（2066例）

（入院延べ総数、1患者1病名 主に新患紹介台帳・画像レポート・主治医に基づいて）

消化器（622例）		消化管アニサキス症	3	好中球減少症	5
食道癌	5	食道狭窄	1	特発性血小板減少性紫斑病	2
胃癌	26	痔核	6	血栓性微小血管炎	1
大腸癌	40	嘔吐症	1		
肝細胞癌	13	便秘	1	呼吸器（381例）	
肝・総胆管癌	19	レンメル症候群	2	肺癌	124
膵臓癌	30	膵のう癌	2	CO ₂ ナルコーシス	1
胆のう癌	4	魚骨	4	肺炎	58
胃粘膜下腫瘍	4	腹膜垂炎	1	誤嚥性肺炎	36
消化管神経内分泌腫瘍	3			レジオネラ肺炎	1
大腸ポリープ	125	循環器（331例）		気管支炎	1
急性肝炎	11	心不全	108	非結核性抗酸菌症	14
自己免疫性肝炎	3	狭心症	62	肺結核	2
薬剤性肝障害	3	急性心筋梗塞	26	新型コロナウイルス感染症	68
アルコール性肝障害	12	陳旧性心筋梗塞	13	気管支拡張症	1
PBC	4	A-V ブロック	10	膿胸	6
肝硬変	10	ペースメーカー電池交換など	12	喘息	2
胃・食道静脈瘤	8	心房細動	15	COPD 増悪	6
肝膿瘍	4	SSS	11	間質性肺炎	34
胆嚢炎	19	PSVT	2	器質化肺炎	6
胆管炎	38	弁膜症	8	気胸・縦隔気種	8
総胆管結石	60	心筋症	2	サルコイドーシス	3
胆管狭窄	12	高血圧性心筋症	3	薬剤性肺障害	3
膵炎	19	無症候性心筋虚血	16	窒息	2
特発性細菌性腹膜炎	1	心筋炎	1	縦隔腫瘍	2
特発性脾静脈閉塞	1	心内膜炎	7	咯血	3
NOMI	1	大動脈瘤（解離性など）	8		
イレウス	30	下肢動脈狭窄・閉塞	6	感染症（57例）	
消化管出血	13	深部静脈血栓症	1	発熱・不明熱	6
出血性消化性潰瘍	10	肺動脈血栓症	11	敗血症	23
腸炎	27	高血圧	2	髄膜炎	1
クローン病	1	心室頻拍	3	ウイルス性脳炎	2
潰瘍性大腸炎	3	肺高血圧症	2	带状疱疹	3
虚血性大腸炎	7	心アミロイドーシス	1	蜂窩織炎	10
虫垂炎	4	起立性低血圧症	1	扁桃炎	7
憩室出血	10			SFTS	1
大腸憩室炎	10	血液（137例）		菌髄炎	1
食道炎	2	悪性リンパ腫	54	感冒	3
好酸球性胃腸炎	1	白血病	23		
マロリーワイス症候群	3	ATL	14	腎臓（195例）	
タンパク漏出性胃腸症	1	多発性骨髄腫	17	慢性腎不全	19
クローンカイトカナダ症候群	4	MDS	6	ネフローゼ症候群	7
直腸潰瘍	2	貧血	15	腎盂腎炎	19

シャントトラブル	76	顕微鏡的多発血管炎	1
尿路感染	40	多発血管炎性肉芽腫症	1
尿管結石	1	IgA 血管炎	1
急性腎不全	19	副腎不全	5
IgA 腎症	4	SIADH	5
ANCA 関連腎炎	3		
腎細胞がん	1	その他 (61例)	
腎梗塞	1	薬物・農薬中毒	7
CAPD 腹膜炎	4	慢性アルコール中毒	2
急性前立腺炎	1	急性アルコール中毒	3
		薬剤性アキレス腱炎	1
神経 (182例)		熱中症	5
脳梗塞	96	低体温症	3
TIA	9	脱水	12
脳出血	25	溺水	1
くも膜下出血	1	老衰	1
硬膜下血腫	4	胸椎、腰椎圧迫骨折	3
失神	2	肋骨骨折	1
てんかん・けいれん	20	骨盤骨折	1
眩暈	6	椎間板ヘルニア	3
迷走神経反射	1	じんましん	1
顔面神経麻痺	7	アナフィラキシーショック	2
認知症	1	突発性難聴	7
頭痛	3	急性喉頭蓋炎	1
ウェルニッケ脳症	1	喉頭浮腫	1
ALS	1	原発不明癌	7
自己免疫介在性脳炎	1		
せん妄	1		
髄膜腫	1		
脳腫瘍	2		
代謝 (83例)			
糖尿病	37		
低血糖 (DM)	5		
糖尿病性ケトアシドーシス	6		
高 Na・低 Na 血症	17		
高 K・低 K 血症	8		
高 Ca・低 Ca 血症	3		
偽痛風	3		
VB12欠乏症	1		
アミロイドーシス	1		
低 P 血症	1		
低 Mg 血症	1		
膠原病・内分泌 (17例)			
全身性エリテマトーデス	1		
皮膚筋炎	3		

報告：五島中央病院精神科 新来患者統計：令和4年

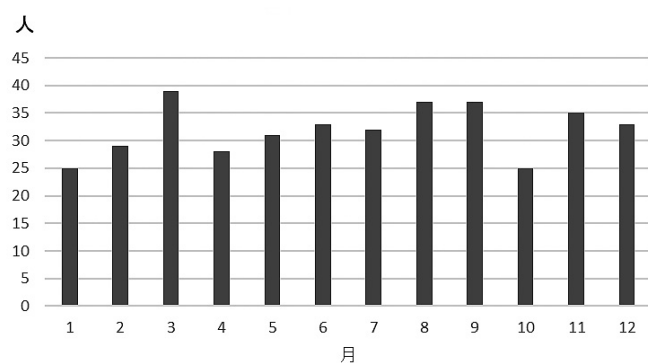
精神科 小田 孝

対象：令和4年1月1日から令和4年12月31日まで当科に新しく受診した患者

方法：カルテ記載に基づいた、年齢・性別・ICD-10に基づく精神科診断・住所・初診時入所施設・受診経路を調査

結 果

1. 月別受診者数



2. 性別受診者数と初診時の年齢構成、平均年齢

	男性(人)	女性(人)	合計(人)
20歳未満	14	25	39
20～49歳	55	55	110
50～64歳	14	18	32
65～89歳	71	95	166
90歳以上	9	28	37
合計	163	221	384
平均(歳)	58.6	60.8	58.0
標準偏差(歳)	25.72	27.63	26.82

3. ICD-10に基づく精神科診断別受診者数

ICD-10/F	人	%
F 0 症状を含む器質性精神障害	157	41.3
F 1 精神作用物質使用による精神および行動の障害	11	2.9
F 2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	6	1.6
F 3 気分障害	49	12.9
F 4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	93	24.5
F 5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	18	4.7
F 6 成人のパーソナリティおよび行動の障害	5	1.3
F 7 知的障害	11	2.9
F 8 心理的発達の障害	6	1.6
F 9 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	10	2.6
G 4 てんかん	7	1.8
特に異常所見なし	7	1.8
小計	380	100.0
その他の診断		
過敏性腸症候群	1	
硬膜下血腫	1	
資格のための健康診断	2	
小計	4	
合計	384	

4. 住所別受診者数

	人	%	令和2年人口	人口1万人対
旧福江市内	223	58.1	21885	101.9
富江町	40	10.4	4165	96.0
岐宿町	40	10.4	2947	135.7
三井楽町	25	6.5	2269	110.2
奈留町	28	7.3	1950	143.6
玉之浦町	13	3.4	1175	110.6
新上五島町	0	0.0	(国勢調査)	
長崎市	2	0.5		
上記除く長崎県内	3	0.8		
長崎県外	10	2.6		
合計	384	100.0		
* 五島市合計	369	96.1	34391	107.3

5. 初診時入所施設別受診者数

初診時入所施設	人	%
なし	289	75.3
院内入院中*	74	19.3
老人グループホーム	11	2.9
特別養護老人ホーム	4	1.0
養護老人ホーム	1	0.3
宅老所	3	0.8
サービス付き高齢者住宅	1	0.3
生活支援ハウス	1	0.3
合計	384	100.0
*「院内入院中」の科別内訳		
	人	%
院内内科	49	66.2
院内整形外科	18	24.3
院内外科	5	6.8
院内小児科	1	1.4
院内泌尿器科	1	1.4
合計	74	100.0

7. 小・中・高校生別受診者数

	学年	男性(人)	女性(人)	合計(人)
小学校	5		1	1
	1	2	2	4
中学校	2		4	4
	3	1	6	7
	1	3	4	7
高等学校	2	3	5	8
	3	1	1	2
合計		10	23	33

6. 紹介経路別受診者数

	人	%
紹介なし	167	43.5
院内*	101	26.3
五島内開業医	41	10.7
五島内公立病院	9	2.3
長崎県内の民間の精神科病院	10	2.6
長崎県内の民間の病院	1	0.3
県外の病院	14	3.6
特別養護老人ホーム	4	1.0
老人グループホーム	6	1.6
有料老人ホーム	1	0.3
ケアマネージャー	11	2.9
市役所長寿介護課	8	2.1
市役所こども未来課	1	0.3
包括支援センター	1	0.3
五島保健所	1	0.3
学校	7	1.8
警察	1	0.3
合計	384	100.0
* 院内からの紹介内訳		
	人	%
内科	58	57.4
整形外科	18	17.8
小児科	8	7.9
外科	5	5.0
救急外来	4	4.0
物忘れ外来	3	3.0
総合診療科	2	2.0
耳鼻咽喉科	1	1.0
油症外来	1	1.0
泌尿器科	1	1.0
合計	101	100.0

令和４年度診療業務実績

１．検査等件数実績

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
撮 影 件 数	C T	3	654	556	676	701	565	627	644	652	665	587	582	584	7,493	
		4	559	589	546	604	583	612	573	600	614	562	540	557	6,939	
	M R I	3	241	209	281	241	236	214	102	0	71	259	238	269	2,361	
		4	240	226	251	244	251	228	232	253	252	233	232	257	2,899	
	心 カ テ	3	11	11	25	23	19	11	20	18	20	26	12	25	221	
		4	14	17	20	16	14	11	16	14	22	19	22	24	209	
手 術	外 科	3	25	25	27	35	22	35	25	15	30	32	27	27	325	
		4	22	22	25	19	33	23	26	21	24	24	23	18	280	
		全麻	19	16	20	14	28	18	12	16	18	19	17	13	210	
		腰麻	0	0	1	2	0	2	0	1	1	0	1	9	9	
		局麻他	3	6	4	3	5	3	14	4	5	4	6	4	61	
	整 形 外 科	3	33	26	39	31	33	38	36	40	33	34	43	39	425	
		4	28	32	31	32	19	34	43	37	25	28	32	39	380	
		全麻	7	6	7	7	6	11	10	12	6	9	8	6	95	
		腰麻	12	20	11	17	9	13	23	20	10	15	14	19	183	
		局麻他	9	6	13	8	4	10	10	5	9	4	10	14	102	
	産 婦 人 科	3	6	4	5	4	9	5	6	10	4	6	8	6	73	
		4	4	2	7	4	5	10	0	1	2	4	2	2	43	
		全麻	0	1	4	1	1	3	0	0	0	2	1	1	14	
		腰麻	3	1	3	3	4	5	0	1	2	1	1	1	25	
		局麻他	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	4	
	眼 科	3	28	16	33	23	28	27	28	26	21	24	28	34	316	
		4	22	21	22	23	27	23	19	25	25	19	22	27	275	
		全麻	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	
		腰麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		局麻他	22	20	21	23	27	23	19	25	25	19	21	27	272	
	泌 尿 器 科	3	9	5	10	11	8	8	12	13	8	5	10	8	107	
		4	10	16	17	26	15	17	19	24	19	22	12	15	212	
		全麻	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
		腰麻	6	12	13	21	8	9	12	9	8	6	6	8	118	
		局麻他	4	3	3	5	7	8	7	15	11	16	6	7	92	
計	件 数	3	101	76	114	104	100	113	107	104	96	101	116	114	1,246	
		4	86	93	103	104	99	107	107	108	95	97	91	101	1,191	
	全 麻	3	34	23	34	28	31	37	28	27	32	29	34	34	371	
		4	26	25	33	22	35	32	22	28	24	30	27	20	324	
	腰 麻	3	27	23	28	29	23	28	31	38	25	30	37	29	348	
		4	21	33	28	43	21	29	35	31	21	23	21	29	335	
	局 麻 他	3	40	30	52	47	46	48	48	39	39	42	45	51	527	
		4	39	35	42	39	43	46	50	49	50	44	43	52	532	
分 娩 件 数		3	6	7	7	9	8	10	14	10	6	15	13	10	115	
		4	12	5	8	17	17	11	2	5	6	8	8	10	109	
ベ ー ス メ ー カ ー		3	6	1	2	2	4	2	7	4	3	3	0	2	36	
		4	1	0	3	4	0	5	1	6	4	2	3	0	29	
内 視 鏡 検 査		3	247	86	280	279	63	252	289	283	250	193	124	179	2,525	
		4	211	241	257	291	122	222	254	307	247	164	197	172	2,685	
栄 養 指 導		3	65	57	75	76	55	49	60	68	75	76	68	88	812	
		4	79	80	96	87	91	79	81	81	102	85	80	98	1,039	
薬 剤 管 理 指 導 料		3	148	157	194	175	215	184	199	203	163	154	200	167	2,159	
		4	177	162	173	188	192	174	192	225	162	194	244	239	2,322	
院 外 処 方 箋 発 行 率		3	93	91	92	92	92	94	92	93	93	92	91	92	92	
		4	91	91	92	90	88	92	91	92	91	92	92	93	91	
検 査 件 数	入 院	3	28,963	30,497	28,914	33,100	32,422	30,766	29,583	32,228	32,780	33,006	29,879	30,282	372,420	
		4	30,283	30,584	29,138	33,384	32,966	33,258	29,175	33,251	30,764	30,628	28,225	27,088	368,744	
	外 来	3	80,147	66,583	83,346	83,028	72,582	76,820	79,917	77,860	83,285	78,359	74,206	85,160	941,293	
		4	73,583	77,585	82,802	83,465	81,334	81,248	79,056	78,260	82,291	76,211	74,014	78,164	948,013	
	計	3	109,110	97,080	112,260	116,128	105,004	107,586	109,500	110,088	116,065	111,365	104,085	115,442	1,313,713	
		4	103,866	108,169	111,940	116,849	114,300	114,506	108,231	111,511	113,055	106,839	102,239	105,252	1,316,757	
透 析		3	396	414	434	416	414	407	406	392	412	397	355	364	4,807	
		4	350	353	356	358	399	355	341	367	436	417	388	385	4,505	
人 間 ド ッ ク		3	54	0	168	208	5	192	198	246	208	198	183	102	1,762	
		4	68	149	195	188	65	80	226	203	168	138	122	116	1,718	
通 院 精 神 療 法		3	1,064	929	1,035	1,085	1,082	972	985	1,065	1,068	1,042	921	1,012	12,260	
		4	1,083	982	1,073	978	1,142	980	1,052	1,000	996	988	985	1,062	12,321	
入 院 精 神 療 法		3	92	99	81	88	100	88	89	81	85	77	76	53	1,009	
		4	44	61	58	57	53	41	51	42	40	61	48	53	609	
C O V I D - 19 検 査		3	408	608	446	513	673	636	410	380	367	477	533	603	6,054	
		4	906	723	674	930	1,363	754	699	706	971	585	586	641	9,538	

2. リハビリ単位数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳血管疾患等 リハビリテーション	3	453	392	421	525	661	540	378	326	280	321	369	678	5,344
	4	493	449	359	541	753	579	395	491	319	572	549	474	5,974
運動器 リハビリテーション	3	2,596	2,626	3,085	2,527	2,598	2,643	2,997	2,920	3,078	2,657	2,649	3,172	33,548
	4	2,755	2,573	3,086	2,793	2,835	2,425	2,903	2,799	2,931	2,539	2,698	3,019	33,356
呼吸器 リハビリテーション	3	367	192	307	312	242	246	222	323	204	153	114	219	2,901
	4	189	228	269	218	179	205	296	176	192	136	199	261	2,548
廃用症候群 リハビリテーション	3	512	571	529	506	498	427	662	548	520	550	558	387	6,268
	4	699	782	617	675	606	508	436	537	522	460	632	456	6,930
合 計	3	3,928	3,781	4,342	3,870	3,999	3,856	4,259	4,117	4,082	3,681	3,690	4,456	48,061
	4	4,136	4,032	4,331	4,227	4,373	3,717	4,030	4,003	3,964	3,707	4,078	4,210	48,808
早期リハビリテーション	3	1,988	1,661	2,043	2,023	2,142	1,694	2,104	1,773	1,866	1,414	1,545	2,120	22,373
	4	1,882	1,720	1,883	1,799	2,019	1,838	1,855	1,948	2,024	1,772	1,988	1,947	22,675
初期リハビリテーション	3	912	601	1,050	963	988	710	896	785	716	613	713	934	9,881
	4	944	708	926	743	860	937	808	917	782	890	832	821	10,168

3. エコー件数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	3	108	107	125	142	106	126	144	139	152	119	112	144	1,524
	4	113	83	112	109	126	159	123	130	132	113	119	127	1,446
循環器科（心エコー）	3	146	117	129	152	135	127	122	130	124	143	133	172	1,630
	4	152	152	143	164	183	149	128	173	177	200	162	171	1,954
人間ドック・健診	3	7	9	9	9	0	10	18	25	17	15	12	7	138
	4	7	6	8	23	9	0	27	29	1	11	14	6	141
小児科	3	5	2	1	2	9	1	6	3	3	5	4	2	43
	4	2	2	6	4	4	9	2	5	18	5	6	2	65
外科	3	16	21	24	29	20	16	29	35	31	42	22	25	310
	4	36	26	27	20	28	31	40	23	32	19	21	33	336
産婦人科	3	15	26	24	18	16	15	17	14	17	17	11	33	223
	4	19	14	11	19	25	5	10	19	14	13	9	11	169
妊婦健診	3	123	91	133	158	176	169	158	150	171	201	165	180	1,875
	4	150	130	168	184	133	108	118	131	127	134	115	126	1,624
耳鼻咽喉科	3	15	9	14	15	14	16	11	13	11	21	15	15	169
	4	7	11	11	13	10	14	15	6	13	13	13	13	139
泌尿器科	3	82	49	64	67	55	54	60	51	85	83	65	76	791
	4	24	29	39	31	52	9	44	40	37	25	40	14	384
計	3	517	431	523	592	531	534	565	560	611	646	539	654	6,703
	4	510	453	525	567	570	484	507	556	551	533	499	503	6,258

4. 加算等件数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入退院支援加算	3	39	48	61	43	43	55	66	88	88	63	71	86	751
	4	91	92	81	97	99	101	105	103	139	79	89	109	1,185
多機関共同指導加算	3	2	2	4	3	3	3	1	2	1	2	1	3	27
	4	0	2	4	4	4	3	4	9	4	8	2	4	48
退院時共同指導料	3	2	4	8	5	3	3	4	3	1	2	3	5	43
	4	1	4	6	13	8	9	12	12	8	13	7	6	99
介護支援等連携指導料	3	6	10	35	26	34	29	42	48	48	55	51	60	444
	4	51	73	59	97	78	87	91	106	102	96	92	95	1,027
在宅患者緊急入院診療加算	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	5
救急医療管理加算 2	3	305	388	431	392	378	399	329	327	392	376	393	396	4,506
	4	279	415	299	393	360	386	408	355	359	314	312	282	4,162
救急医療管理加算 1	3	199	218	226	226	190	144	248	238	267	288	241	277	2,762
	4	336	255	247	242	258	227	130	222	257	274	261	250	2,959
院内トリアージ加算	3	42	71	43	69	99	53	55	45	57	104	106	165	909
	4	277	119	49	82	70	50	48	34	43	27	35	34	868
外来化学療法加算・ 外来腫瘍化学療法診療料	3	106	99	93	102	108	86	75	80	88	92	94	100	1,123
	4	96	101	111	93	86	77	78	92	85	83	78	99	1,079
画像診断管理加算 2	3	725	613	764	769	668	704	614	549	604	718	680	695	8,103
	4	672	692	685	726	691	694	661	699	699	660	652	676	8,207

各診療科別年間手術症例数

期間：令和 4 年 1 月 1 日～令和 4 年12月31日

内科手術件数 593件

分 類		手 術 名	件数
胸部	食道	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	6 件
		内視鏡的食道粘膜切除術	1 件
心・脈管	心、心膜、肺動静脈、冠血管、動脈、静脈気管等	経皮的冠動脈形成術	13件
		経皮的冠動脈ステント留置術	42件
		体外ペースメーカー	5 件
		ペースメーカー移植術	17件
		ペースメーカー交換術	12件
		大動脈バルーンパンピング法 (IABP 法)	15件
		バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	1 件
		動脈塞栓除去術	1 件
		血管塞栓術	11件
		小腸結腸内視鏡的止血術	11件
		経皮的シャント拡張術・血栓除去術	76件
腹部	気管支 胃、十二指腸 大腸、腎臓	内視鏡的大腸ポリープ切除	140件
		内視鏡的大腸粘膜切除	8 件
		早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	6 件
		内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	11件
		内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	2 件
		内視鏡的消化管止血術	26件
		内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	6 件
		経皮的腎（腎盂）瘻造設術	4 件
	胆嚢、胆道 肝、膵管	内視鏡的乳頭切開術	31件
		内視鏡的胆道ステント留置術	106件
		内視鏡的胆道結石除去術	5 件
		経皮的胆管ドレナージ術	4 件
		経皮的肝膿瘍ドレナージ術	7 件
		経皮経肝胆管ステント挿入術	4 件
		肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	3 件
		内視鏡的膵管ステント留置術	10件
	空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸	下部消化管ステント留置術	4 件
		内視鏡的結腸異物摘出術	1 件
		経皮的膿胸ドレナージ術	4 件
		小 計	593件

眼科手術件数 443件

分 類		手 術 名	件数
眼	結膜	翼状片手術	6 件
		結膜下異物除去術	1 件
		結膜結石除去術	13件
	眼瞼	マイボーム腺梗塞摘出術	1 件
		麦粒腫切開術	2 件
		眼窩内腫瘍摘出術（表在性）	4 件
		先天性鼻涙管閉塞開放術	1 件
		眼瞼内反症手術	1 件
	ぶどう膜	涙管チューブ挿入術(その他のもの)	1 件
		虹彩光凝固術	13件
	角膜、強膜	角膜、強膜異物除去術	3 件
	眼房、網膜	網膜光凝固術	34件
	水晶体、硝子体	硝子体莖頭微鏡下離断術	20件
		水晶体再建術	287件
		硝子体切除術	9 件
		後発白内障手術	47件
		小 計	443件

外科手術件数 303件

分 類		手 術 名	件数
胸部	乳腺	乳腺悪性腫瘍手術	6 件
		乳腺腫瘍摘出術	3 件
心・脈管	胸	胸腔鏡下肺切除術	1 件
		胸腔鏡下試験切除術	1 件
		胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	9 件
		胸腔鏡下膿胸腔搔爬術	1 件
	静脈	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用埋込型カテーテル設置	30件
		中心静脈栄養用埋込型カテーテル設置	1 件
		下大静脈フィルター留置術	1 件
	リンパ管、リンパ節	リンパ節摘出術	2 件
		リンパ節群郭清術（腋窩）	1 件
腹部	気管	気管切開術	2 件
		気管異物除去術（直達鏡による）	1 件
		気管支異物除去術（直達鏡による）	1 件
	腹壁、ヘルニア	ヘルニア手術	16件
		腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	24件
		腹腔鏡下ヘルニア手術	1 件
		腹壁瘻手術（腹腔に通ずるもの）	1 件
	腹膜	急性汎発性腹膜炎手術	4 件
		胃腸吻合術（ブラウン吻合含む）	3 件
	胃、十二指腸	腹腔鏡下胃切除術	3 件
		腹腔鏡下胃全摘術	1 件
		腹腔鏡下胃腸吻合術	1 件
		腹腔鏡下胃局所切除術	1 件
		胃切除術	4 件
		胃全摘術（悪性腫瘍）	4 件
		胃切開術	1 件
		胃縫合術	1 件
		噴門側胃切除術(悪性腫瘍切除術)	1 件
		胃瘻造設術	9 件
	胆嚢、胆道 胆管、腸管	胆嚢摘出術	13件
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	33件
		胆管切開結石摘出術(胆嚢摘出含まない)	2 件
		胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢に限局する)	3 件
		腸閉塞症手術	6 件
		腸管癒着症手術	1 件
		胆嚢外瘻造設術	9 件
		腸間膜腫瘍摘出術(腸切除を伴わない)	1 件
		腸吻合術	1 件
		総胆管胃（腸）吻合術	1 件
	空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸、その他	胆管切開結石摘出術	1 件
		小腸切除術	1 件
		虫垂切除術	5 件
		結腸切除術	16件
		腹腔鏡下小腸切除術	1 件
		腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	18件
		腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術	1 件
		腹腔鏡下虫垂切除術	6 件
		腹腔鏡下脾摘出術	1 件
		限局性腹腔膿瘍手術	1 件
直腸	直腸	経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	1 件
		人工肛門造設術	9 件
		人工肛門形成術	4 件
		人工肛門閉鎖術	2 件
		脾摘出術	1 件
		直腸切除・切断術	4 件
		直腸脱手術	1 件
		腹腔鏡下直腸切除・切断術	6 件
		腹腔鏡下直腸脱手術	1 件
		肛門周囲膿瘍切開術	2 件
	肛門、その周辺	肛門形成手術	1 件
		肛門ポリープ切除術	1 件
		痔核手術	9 件
		痔瘻根治手術	1 件
		腹腔鏡下尿管摘出術	1 件
		腹腔鏡下肝嚢胞切開術	1 件
		肝切除術	2 件
		小 計	303件

各診療科別年間手術症例数

期間：令和４年１月１日～令和４年12月31日

整形外科手術件数 491件

分	類	手 術 名	件数	
筋骨格系 ・四肢・体幹	筋膜、筋、 腱、腱鞘	腱鞘切開術	15件	
		筋膜切開術	1 件	
		アキレス腱断裂手術	2 件	
		骨折経皮的鋼線刺入固定術	5 件	
	四肢骨	骨折観血の手術	155件	
		骨折非観血の整復術	24件	
		超音波骨折治療法	14件	
		骨内異物（挿入物）除去術	54件	
		手根管開放手術	12件	
		手、足、鎖骨	関節脱臼非観血の整復術	38件
			関節脱臼観血の整復術	3 件
	偽関節手術（鎖骨）		1 件	
	ガングリオン摘出術（指・手）		1 件	
	四肢関節、 靱帯	関節鏡下半月板切除術	7 件	
		関節内骨折観血の手術	9 件	
		人工骨頭挿入術	44件	
		人工関節置換術	66件	
		人工関節再置換術	1 件	
		靱帯断裂縫合術	1 件	
		腱縫合術	10件	
		四肢切断、 離断、再接合	四肢切断術	2 件
			断端形成術	1 件
	その他	骨移植術	4 件	
		神経移行術	5 件	
	神経系	抹消神経、 交感神経	直達牽引	8 件
			一時的創外固定骨折治療術	7 件
			神経剥離術（その他のもの）	1 件
小 計			491件	

泌尿器科手術件数 258件

分 類		手 術 名	件数
尿路系・副腎	尿管、精巣 その他	経尿道的尿管ステント留置術	127件
		経尿道的尿管ステント拔去術	50件
		経尿道的尿路結石摘出術	1 件
		経尿道的尿路結石除去術	3 件
		経尿道的前立腺核出術	7 件
		腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	1 件
		精巣摘出術	1 件
		包茎手術	2 件
		外尿道腫瘍切除術	1 件
		経尿道的電気凝固術	1 件
		尿管皮膚瘻造設術	1 件
		尿道狭窄内視鏡手術	2 件
		経尿道的尿管狭窄拡張術	1 件
		血管結紮術	2 件
	膀胱	膀胱異物摘出術（経尿道的手術）	1 件
		膀胱内凝血除去術	15件
		膀胱結石摘出術	7 件
		膀胱脱手術	2 件
		膀胱悪性腫瘍手術	14件
心、脈管	動脈	内シャント設置術	17件
その他		陰囊水腫手術	2 件
小 計			258件

耳鼻いんこう科手術件数 31件

分 類		手 術 名	件数
耳鼻咽喉	外耳	外耳道異物除去術	6 件
	中耳	鼓膜チューブ挿入術	3 件
		鼓膜切開術	4 件
	鼻	鼻腔粘膜焼灼術	13件
	咽頭、扁桃	咽頭異物摘出術	5 件
小 計			31件

その他

分 類		手 術 名	件数
		創傷処理	272件
		皮膚切開術	69件
		皮膚、皮下腫瘍摘出術	21件
		その他	12件
小 計			374件

産婦人科手術件数 79件

（年間分娩件数 88件）

分 類		手 術 名	件数
性器	子宮	子宮全摘術	10件
	子宮附属器	子宮脱手術	5 件
	外陰、会陰	子宮頸管ポリープ切除術	9 件
	膣	子宮附属器癒着剥離術（両側、腹腔鏡）	1 件
		子宮附属器悪性腫瘍手術	1 件
		子宮頸部摘出術	1 件
		腹腔鏡下腔式子宮全摘術	1 件
		バルトリン腺嚢胞腫瘍摘出術（造袋術含む）	1 件
		バルトリン腺膿瘍切開術	2 件
その他	産科手術	帝王切開術	26件
		吸引娩出術	8 件
		卵管結紮術	3 件
		子宮附属器腫瘍摘出術	6 件
		頸管裂創縫合術	1 件
		流産手術	1 件
		異所性妊娠手術（開腹）	2 件
		腔壁形成手術	1 件
小 計			79件

救急患者搬送一覧

令和4年4月1日～令和5年3月31日

番号	月 日	病 名	移 送 先	移送方法
1	4月2日	硬膜外血腫	長崎大学病院	ドクターヘリ
2	4月4日	急性期症候性脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
3	4月17日	前期破水	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
4	4月18日	左内頸動脈高度狭窄	長崎医療センター	ドクターヘリ
5	4月20日	右後頸部壊死性筋膜炎疑い	長崎医療センター	ドクターヘリ
6	4月22日	脳出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
7	5月10日	新生児呼吸障害	長崎医療センター	県 防 災 ヘ リ
8	5月18日	急性期脳梗塞	長崎医療センター	海 保 ヘ リ
9	5月19日	前期破水	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
10	5月19日	脳出血	長崎大学病院	ドクターヘリ
11	5月25日	頸椎脱臼骨折	長崎大学病院	ドクターヘリ
12	6月1日	羊水過多、胎児胸水、胎児不整脈	長崎大学病院	ドクターヘリ
13	6月1日	急性期脳梗塞	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
14	6月6日	前期破水	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
15	6月12日	小腸出血	長崎大学病院	ドクターヘリ
16	6月14日	脳出血	長崎大学病院	海 自 ヘ リ
17	6月15日	穿孔性腹膜炎	福岡大学病院	ドクターヘリ
18	6月26日	特発性食道破裂	長崎大学病院	海 保 船 舶
19	7月4日	小脳出血	長崎大学病院	県 防 災 ヘ リ
20	7月11日	急性期脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
21	7月12日	心不全	長崎大学病院	ドクターヘリ
22	7月28日	胸水貯留	福岡市立こども病院	ドクターヘリ
23	8月1日	前期破水	長崎みなとメディカルセンター	県 防 災 ヘ リ
24	8月17日	穿孔性腹膜炎	長崎大学病院	海 自 ヘ リ
25	8月19日	小脳出血	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
26	8月20日	外傷性くも膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
27	8月25日	急性硬膜下血腫	長崎医療センター	ドクターヘリ
28	9月9日	脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
29	9月21日	切迫早産、胎児奇形	長崎大学病院	ドクターヘリ
30	9月25日	脳出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
31	9月23日	胃穿孔	長崎医療センター	ドクターヘリ
32	9月28日	徐脈	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
33	10月5日	急性大動脈解離	長崎大学病院	ドクターヘリ
34	10月6日	喀血、吐血	長崎医療センター	ドクターヘリ
35	10月27日	子宮頸がん	長崎大学病院	ドクターヘリ
36	11月6日	視床出血後の脳室内穿破	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
37	11月11日	脳梗塞	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
38	11月22日	急性期脳梗塞	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
39	12月3日	クモ膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
40	12月7日	急性心筋梗塞	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
41	12月7日	超急性期脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
42	12月11日	脳出血	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
43	12月27日	急性大動脈解離	長崎大学病院	ドクターヘリ
44	12月28日	術後膣断端解離	済生会長崎病院	ドクターヘリ
45	12月29日	心不全増悪	長崎大学病院	海 自 ヘ リ
46	1月1日	超急性期脳梗塞	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
47	1月11日	脳幹梗塞	長崎医療センター	海 自 ヘ リ

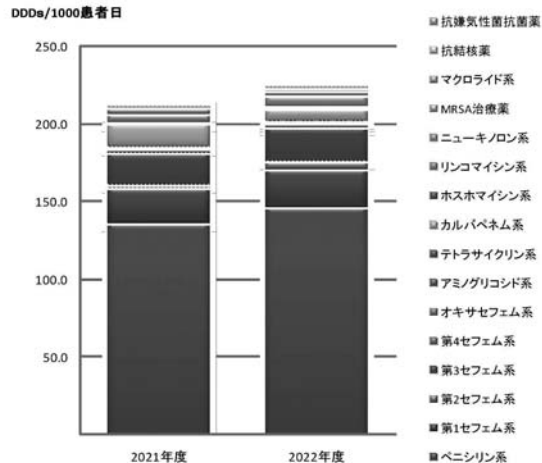
番号	月 日	病 名	移 送 先	移送方法
48	1月14日	傍ストーマヘルニア嵌頓	長崎医療センター	海 保 飛 行 機
49	1月20日	切迫早産	長崎みなとメディカルセンター	ド ク タ ー ヘ リ
50	1月25日	クモ膜下出血	長崎医療センター	ド ク タ ー ヘ リ
51	2月2日	脳出血	長崎医療センター	ド ク タ ー ヘ リ
52	2月5日	大動脈解離	長崎医療センター	ド ク タ ー ヘ リ
53	2月14日	超急性期脳梗塞	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
54	3月2日	心筋梗塞	長崎大学病院	ド ク タ ー ヘ リ
55	3月2日	急性肝不全	長崎大学病院	ド ク タ ー ヘ リ
56	3月6日	左脛骨近位端関節内開放骨折	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
57	3月20日	急性呼吸不全、急性肺炎	長崎医療センター	海 自 ヘ リ
58	3月28日	大動脈解離	長崎大学病院	ド ク タ ー ヘ リ
59	3月31日	急性扁桃編	長崎医療センター	ド ク タ ー ヘ リ

2022年度 抗菌薬（注射薬）及び消毒薬の年間使用概況

1. 全入院患者での使用状況について

2022年度（2022年4月～2023年3月）における抗菌薬使用量を1000患者日あたりの抗菌薬使用密度（antimicrobial use density：AUD）で集計し、抗菌薬の使用状況について前年度との比較を行った。

病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD（DDD/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ABPC/SBT（スルバシリン）	103.4	110.5	+7.1
②	PIPC/TAZ（タゾピペ）	26.3	31.9	+5.6
③	CEZ（セファゾリン）	22.5	24.4	+1.9
④	CTRX（セフトリアキソン）	17.7	17.9	+0.2
⑤	MEPM（メロベナム）	14.3	7.8	-6.5

抗菌薬系統別AUD（DDD/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	136.5	146.8	+10.3
②	第1セフェム系	22.5	24.4	+1.9
③	第3セフェム系	20.1	21.6	+1.6
④	カルバペネム系	15.1	8.3	-6.8
⑤	ニューキノロン系	5.0	6.9	+1.9

抗菌薬系統別使用比率（%AUD）

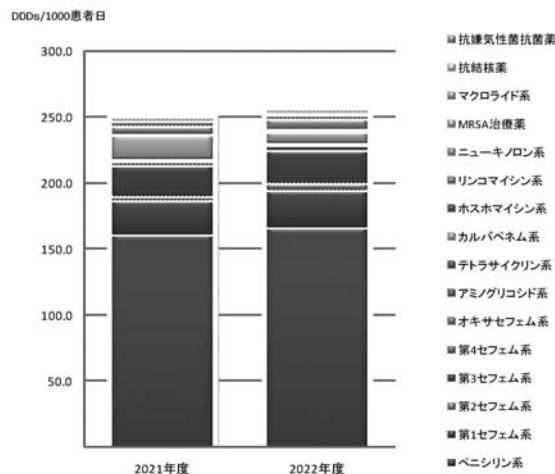
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	64.6%	65.6%	+1.1%
②	第1セフェム系	10.6%	10.9%	+0.3%
③	第3セフェム系	9.5%	9.7%	+0.2%
④	カルバペネム系	7.1%	3.7%	-3.4%
⑤	ニューキノロン系	2.4%	3.1%	+0.7%

全入院患者の年間 AUD は223.7（前年比+12.3）と増加していた。薬剤別 AUD ではスルバシリン注（前年比+7.1）が最も多く、次いでタゾピペ、セファゾリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比+10.3）が最も多く、次いで第1世代セフェム系、第3世代セフェム系の順となった。昨年度と比較し、ペニシリン系の使用量が伸び、その他の使用量は横ばいまたは減少していた。使用比率はペニシリン系65.6%（前年比+1.1%）、第1世代セフェム系10.9%、第3世代セフェム系9.7%となった。

2. 一般病棟患者での使用状況について

精神科患者を除く一般病棟患者の年間 AUD は254.8（前年比+6.2）だった。薬剤別 AUD や抗菌薬系統別 AUD、使用比率については全入院患者と同様の傾向であったが、AUD の値では全入院患者の場合よりも値が大きくなった。これは精神科患者では抗菌薬の使用頻度が少なく、一般病棟患者では抗菌薬の使用頻度が多いことを反映していると考えられた。

一般病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD（DDD/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ABPC/SBT（スルバシリン）	122.1	125.7	+3.6
②	PIPC/TAZ（ゾシン）	31.0	36.4	+5.4
③	CEZ（セファゾリン）	26.5	28.0	+1.5
④	CTRX（セフトリアキソン）	20.6	20.5	-0.1
⑤	MEPM（メロベン）	17.0	8.9	-8.1

抗菌薬系統別AUD（DDD/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	161.2	166.9	+5.8
②	第1セフェム系	26.5	28.0	+1.5
③	第3セフェム系	23.5	24.8	+1.3
④	カルバペネム系	17.9	9.5	-8.4
⑤	ニューキノロン系	5.8	7.9	+2.1

抗菌薬系統別使用比率（%AUD）

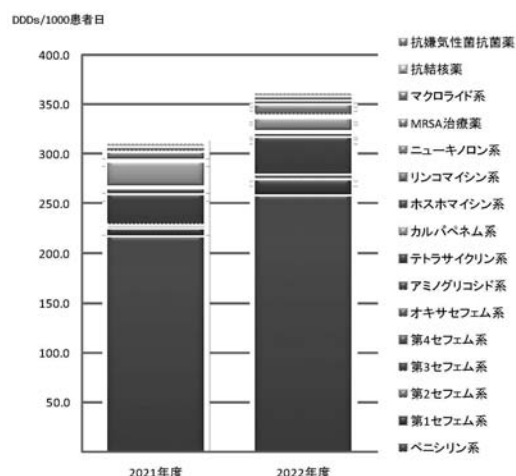
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	64.8%	65.5%	+0.7%
②	第1セフェム系	10.7%	11.0%	+0.3%
③	第3セフェム系	9.4%	9.7%	+0.3%
④	カルバペネム系	7.2%	3.7%	-3.5%
⑤	第2セフェム系	1.1%	2.2%	+1.2%

3. 各診療科（入院患者）の使用状況について

A. 内科（入院患者）

内科の年間 AUD は360.1（前年比+50.3）と前年度から増加した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が189.8（前年比+43.3）と昨年度同様最も高く、次いでタゾピペ注、セフトリアキソン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比+41.3）が最も多く、次いで第3世代セフェム系、第1世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系72.1%（前年比+1.6%）、第3世代セフェム系10.5%、第1世代セフェム系4.3%となった。

内科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD（DDD/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ABPC/ SBT（スルバシリン）	174.6	199.0	+24.4
②	PIPC/TAZ（ゾシン）	37.8	55.9	+18.1
③	CTRX（セフトリアキソン）	26.8	32.0	+5.2
④	CEZ（セファゾリン）	8.6	15.5	+6.9
⑤	MEPM（メロペン）	23.9	12.5	-11.4

抗菌薬系統別AUD（DDD/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	218.4	259.8	+41.3
②	第3セフェム系	30.6	37.9	+7.2
③	第1セフェム系	8.6	15.5	+6.9
④	カルバペネム系	25.4	13.6	-11.8
⑤	第4セフェム系	6.7	5.8	-0.9

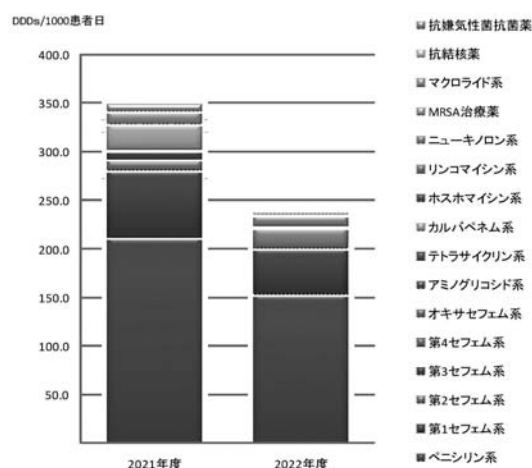
抗菌薬系統別使用比率（%AUD）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	70.5%	72.1%	+1.6%
②	第3セフェム系	9.9%	10.5%	+0.6%
③	第1セフェム系	2.8%	4.3%	+1.5%
④	カルバペネム系	8.2%	3.8%	-4.4%
⑤	ニューキノロン系	2.5%	3.1%	+0.6%

B. 外科（入院患者）

外科の年間 AUD は236.6（前年比-112.7）に減少した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が117.6（前年比-12.3）で最も多く、次いでタゾピペ注、セファゾリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比-58.4）が最も多く、次いで第1世代セフェム系、第2世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系65.1%（前年比+4.3%）、第1世代セフェム系19.9%、第2世代セフェム系8.9%となった。

外科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD（DDD/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ABPC/ SBT（スルバシリン）	130.0	117.6	-12.3
②	PIPC/TAZ（ゾシン）	82.5	36.5	-46.0
③	CEZ（セファゾリン）	68.6	47.0	-21.7
④	CMZ（セフメタゾール）	10.8	20.0	+9.2
⑤	LVFX（クラベット）	1.5	5.2	+3.8

抗菌薬系統別AUD（DDD/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	212.5	154.1	-58.4
②	第1セフェム系	68.6	47.0	-21.7
③	第2セフェム系	11.0	21.1	+10.1
④	ニューキノロン系	13.4	9.6	-3.8
⑤	第3セフェム系	10.2	1.4	-8.8

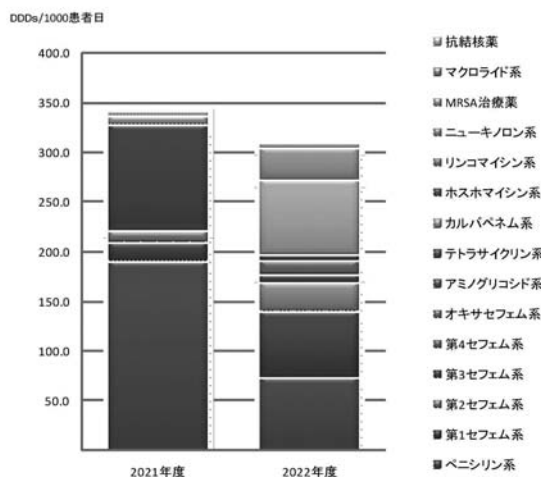
抗菌薬系統別使用比率（%AUD）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	60.8%	65.1%	+4.3%
②	第1セフェム系	19.7%	19.9%	+0.2%
③	第2セフェム系	3.2%	8.9%	+5.8%
④	ニューキノロン系	3.8%	4.1%	+0.2%
⑤	第3セフェム系	2.9%	0.6%	-2.3%

C. 泌尿器科（入院患者）

泌尿器科の年間 AUD は307.5(前年比-31.7)に減少した。薬剤別 AUD ではメロペン注が74.2(前年比+65.1)で最も多く、次いでセファゾリン注、タゾピペ注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではカルバペネム系（前年比+65.1）が最も多く、次いでペニシリン系、第1セフェム系の順となった。使用比率はカルバペネム系24.1%（前年比+21.4%）、ペニシリン系24.1%、第1世代系セフェム系21.7%となった。

泌尿器科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDD/1000患者日)

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	MEPM (メロペン)	9.1	74.2	+65.1
②	CEZ (セファゾリン)	19.4	66.8	+47.4
③	PIPC/TAZ (ゾシン)	68.6	40.0	-28.6
④	LVFX (クラビット)	1.7	30.4	+28.8
⑤	ABPC/SBT (スルバシリン)		27.7	+27.7

抗菌薬系統別AUD (DDD/1000患者日)

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	カルバペネム系	9.1	74.2	+65.1
②	ペニシリン系	191.5	74.0	-117.5
③	第1セフェム系	19.4	66.8	+47.4
④	ニューキノロン系	1.7	32.6	+30.9
⑤	第2セフェム系	11.2	29.1	+17.9

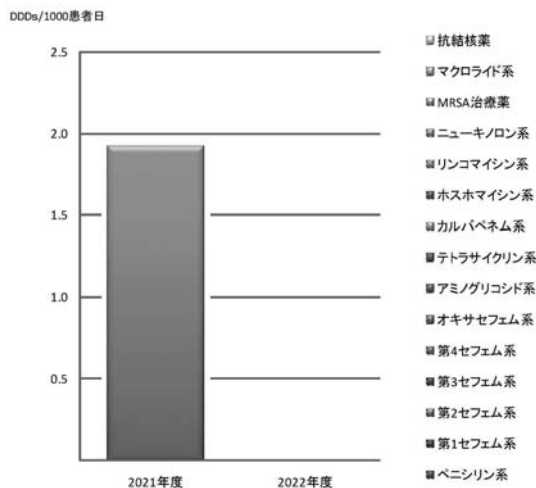
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	カルバペネム系	2.7%	24.1%	+21.4%
②	ペニシリン系	56.5%	24.1%	-32.4%
③	第1セフェム系	5.7%	21.7%	+16.0%
④	ニューキノロン系	0.5%	10.6%	+10.1%
⑤	第2セフェム系	3.3%	9.5%	+6.1%

D. 眼科（入院患者）

眼科は今年度、抗菌薬注射の使用がなかった。

眼科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDD/1000患者日)

	抗菌薬	2020年度	2021年度	前年比
①	CMZ(セフメタゾール)	1.9		-1.9
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

抗菌薬系統別AUD (DDD/1000患者日)

	抗菌薬	2020年度	2021年度	前年比
①	第2セフェム系	1.9		-1.9
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

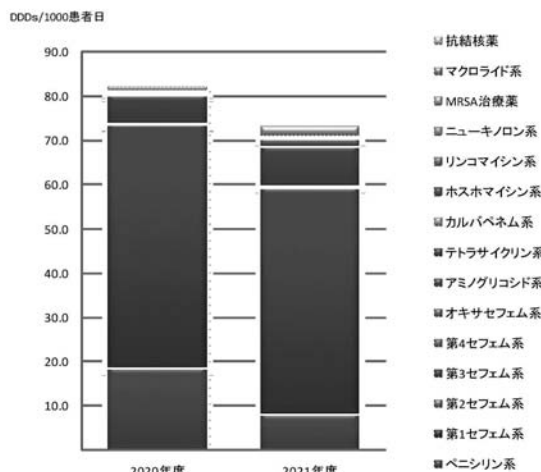
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2020年度	2021年度	前年比
①	第2セフェム系	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

E. 整形外科（入院患者）

整形外科の年間 AUD は73.1（前年比-9.0）と減少した。薬剤別 AUD ではセファゾリン注が51.3（前年比-4.0）で最も多く、次いでセフトリアキソン注、スルバシリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD では第1世代セフェム系が最も多く、次いで第1世代セフェム系、ペニシリン系の順となった。使用比率は第1世代セフェム系70.1%（前年比+2.7%）、第3世代セフェム系が12.3%、ペニシリン系が11.2%となった。

整形外科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDD/1000患者日)				
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	CEZ (セファゾリン)	55.3	51.3	-4.0
②	CTRX (セフトリアキソン)	6.4	9.0	+2.6
③	ABPC/SBT (スルバシリン)	12.4	4.9	-7.6
④	PIPC/TAZ (ゾシン)	1.4	3.3	+1.9
⑤	CFPM (マキシブーム)	0.1	1.8	+1.8

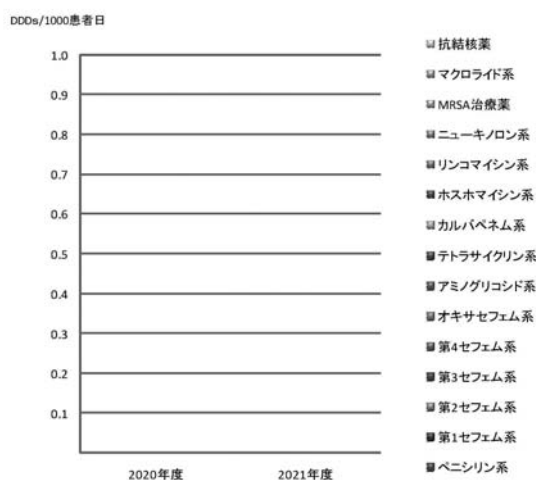
抗菌薬系統別AUD (DDD/1000患者日)				
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	第1セフェム系	55.3	51.3	-4.0
②	第3セフェム系	6.4	9.0	+2.6
③	ペニシリン系	18.7	8.2	-10.5
④	MRSA治療薬	0.6	2.0	+1.4
⑤	第4セフェム系	0.1	1.8	+1.8

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)				
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	第1セフェム系	67.4%	70.1%	+2.7%
②	第3セフェム系	7.8%	12.3%	+4.5%
③	ペニシリン系	22.8%	11.2%	-11.5%
④	MRSA治療薬	0.8%	2.8%	+2.0%
⑤	第4セフェム系	0.1%	2.5%	+2.4%

F. 耳鼻咽喉科（入院患者）

耳鼻科の抗菌薬使用はなかった。

耳鼻科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDD/1000患者日)				
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	CTRX (セフトリアキソン)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

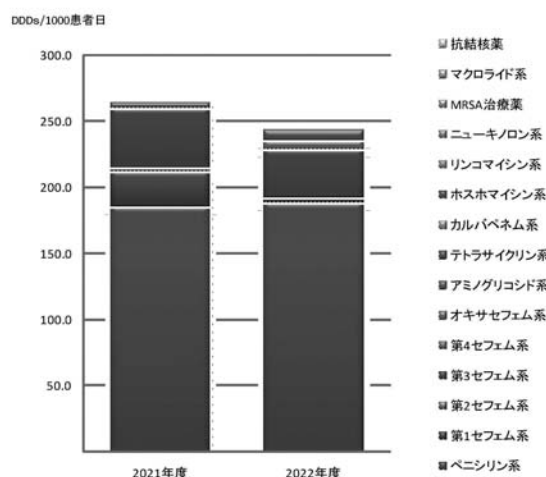
抗菌薬系統別AUD (DDD/1000患者日)				
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	第3セフェム系	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)				
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	第3セフェム系	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

G. 小児科（入院患者）

小児科の年間 AUD は243.2（前年比-21.2）と減少した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が107.4（前年比-35.8）で最も多く、次いでピクシリン注、クラフォラン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比+3.1）が最も多く、次いで第3世代セフェム系、アミノグリコシド系の順となった。使用比率はペニシリン系が77.5%（前年比+7.4%）、第3世代セフェム系が15.0%、アミノグリコシド系が2.9%となった。

小児科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD（DDD_s/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ABPC/ SBT（スルバシリン）	143.2	107.4	-35.8
②	ABPC（ピクシリン）	42.1	78.4	+36.3
③	CTX（クラフォラン）	7.0	36.4	+29.4
④	GM（ゲンタマイシン）	4.1	7.1	+3.0
⑤	FMOX（フルマリン）		7.1	+7.1

抗菌薬系統別AUD（DDD_s/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	185.4	188.5	+3.1
②	第3セフェム系	45.1	36.4	-8.7
③	アミノグリコシド系	4.1	7.1	+3.0
④	オキサセフェム系		7.1	+7.1
⑤	第1セフェム系	27.2	4.1	-23.1

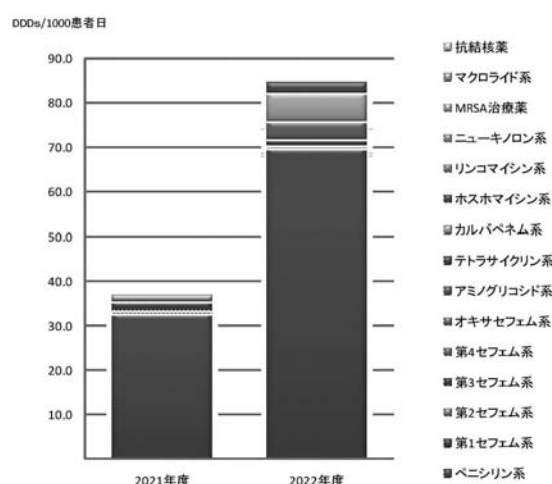
抗菌薬系統別使用比率（%AUD）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	70.1%	77.5%	+7.4%
②	第3セフェム系	17.0%	15.0%	-2.1%
③	アミノグリコシド系	1.6%	2.9%	+1.4%
④	オキサセフェム系	0.0%	2.9%	+2.9%
⑤	第1セフェム系	10.3%	1.7%	-8.6%

H. 産婦人科（入院患者）

産婦人科の年間 AUD は84.5（前年比+47.5）と増加した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が35.3（前年比+35.3）で最も多く、次いでペントシリン注、セフメタゾール注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比+37.0）が最も多く、次いでカルバペネム系、第4世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系が82.7%（前年比-6.3%）、カルバペネム系が7.6%、第4セフェム系が4.8%となった。

産婦人科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD（DDD_s/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ABPC/ SBT（スルバシリン）		35.3	+35.3
②	PIPC（ペントシリン）	27.4	27.9	+0.5
③	CMZ（セフメタゾール）	0.9	6.8	+6.0
④	PIPC/ TAZ（ゾシン）	5.5	6.7	+1.3
⑤	MEPM（メロペン）	1.3	6.4	+5.1

抗菌薬系統別AUD（DDD_s/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	32.9	69.9	+37.0
②	カルバペネム系	1.3	6.4	+5.1
③	第4セフェム系		4.1	+4.1
④	ホスホマイシン系		2.2	+2.2
⑤	第3セフェム系	2.0	1.4	-0.6

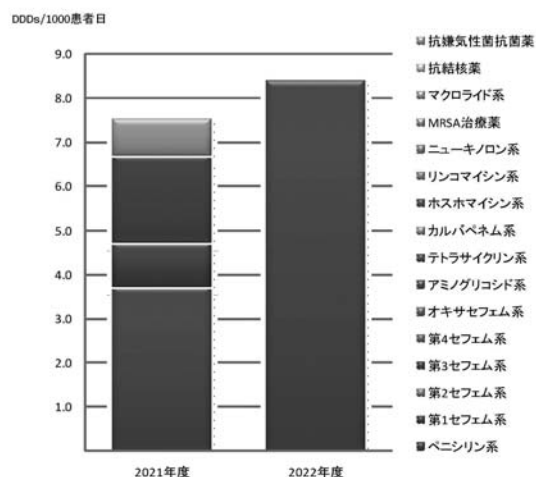
抗菌薬系統別使用比率（%AUD）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	89.0%	82.7%	-6.3%
②	カルバペネム系	3.4%	7.6%	+4.2%
③	第4セフェム系	0.0%	4.8%	+4.8%
④	ホスホマイシン系	0.0%	2.6%	+2.6%
⑤	第3セフェム系	5.6%	1.7%	-3.9%

1. 精神科（入院患者）

精神科の年間 AUD は8.4（前年比+0.9）に増加した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が6.1（前年比+3.2）で最も多く、次いでピクシリン注、タゾピペ注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比+4.7）のみの使用となった。

精神科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD（DDD_s/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ABPC/ SBT（スルバシリン）	2.9	6.1	+3.2
②	ABPC（ピクシリン）		1.7	+1.7
③	PIPC/TAZ（ゾシン）	0.8	0.6	-0.2
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

抗菌薬系統別AUD（DDD_s/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	3.7	8.4	+4.7
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

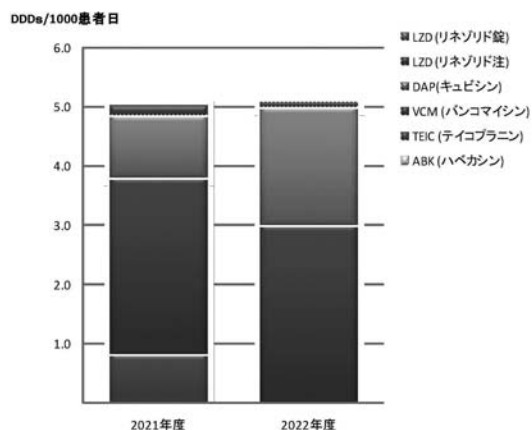
抗菌薬系統別使用比率（%AUD）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	ペニシリン系	49.5%	100.0%	+50.5%
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

4. MRSA 治療薬の使用状況について

全入院患者における MRSA 治療薬の年間 AUD は5.1（前年比+0.1）に増加した。薬剤別 AUD ではバンコマイシン注3.0（前年比+0.0）、キュビシン注2.0（前年比-0.9）、リネゾリド注0.1（前年比-0.1）となった。バンコマイシン点眼液等、外用薬の抗 MRSA 薬の処方数はなかった。

全入院患者 MRSA 治療薬使用量（AUD）



全入院患者薬剤別AUD（DDD_s/1000患者日）

	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	VCM（バンコマイシン）	3.0	3.0	±0.0
②	DAP（キュビシン）	1.1	2.0	+0.9
③	LZD（リネゾリド注）	0.2	0.1	-0.1
④				+1.6
⑤				

全入院患者抗MRSA外用薬使用本数（本）

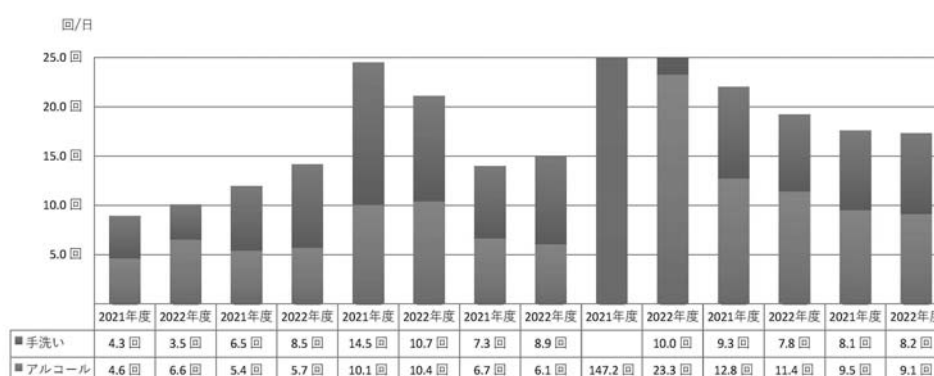
	抗菌薬	2021年度	2022年度	前年比
①	バンコマイシン点眼液2.5%	0	0	±0
②	バクトロバン鼻腔用軟膏	0	0	±0

5. 消毒薬の使用状況について

アルコール手指消毒剤と液体石鹸の年間請求量を使用回数に換算し、これを患者在院日数で除して「1 入院患者に関わる病院スタッフが1 日に行う手指衛生回数」を算出した。請求量から算出した手指衛生回数（手洗い＋アルコール消毒）は全病棟17.3回（前年度17.6回）、2 階病棟10.1回（前年度8.9回）、3 階南病棟14.2回（前年度12.0回）、4 階北病棟21.1回（前年度24.5回）、4 階南病棟14.9回（前年度14.0回）、5 階北病棟33.3回（前年度147.2回）、5 階南病棟19.2回（前年度22.0回）であった。5 北病棟は2022年12月までコロナ対策病棟となっていた関係で、有意な値は得られていない。

昨年度と比べ、全病棟の手指衛生回数は減少していた。これは5 階北病棟が2023年1月よりコロナ対策病棟ではなくなり、前年度のような異常値がなくなったためと考える。病棟別にみると4 北、5 南を除く病棟で手指衛生回数が増加といった状況であった。アルコールによる手指消毒回数をみると、2 病棟、3 南、4 北病棟で増加していた。アルコール製剤の手指消毒目標回数は10回／日なので、アルコール手指消毒剤での手指衛生回数の更なる増加が望まれる。

1 入院患者が1 日に受ける手指衛生回数

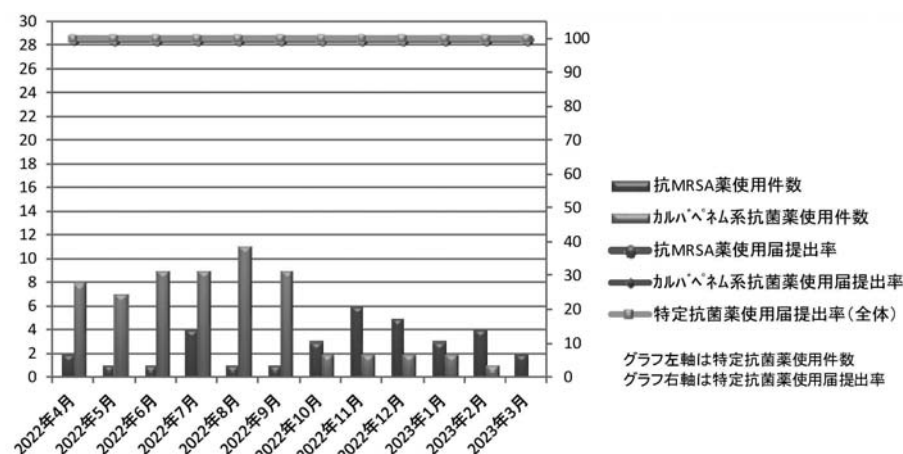


病棟	2階		3南		4北		4南		5北		5南		全病棟	
年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度
手洗い	4.3回	3.5回	6.5回	8.5回	14.5回	10.7回	7.3回	8.9回		10.0回	9.3回	7.8回	8.1回	8.2回
アルコール	4.6回	6.6回	5.4回	5.7回	10.1回	10.4回	6.7回	6.1回	147.2回	23.3回	12.8回	11.4回	9.5回	9.1回
合計	8.9回	10.1回	12.0回	14.2回	24.5回	21.1回	14.0回	14.9回	147.2回	33.3回	22.0回	19.2回	17.6回	17.3回

6. 特定抗菌薬の使用状況について

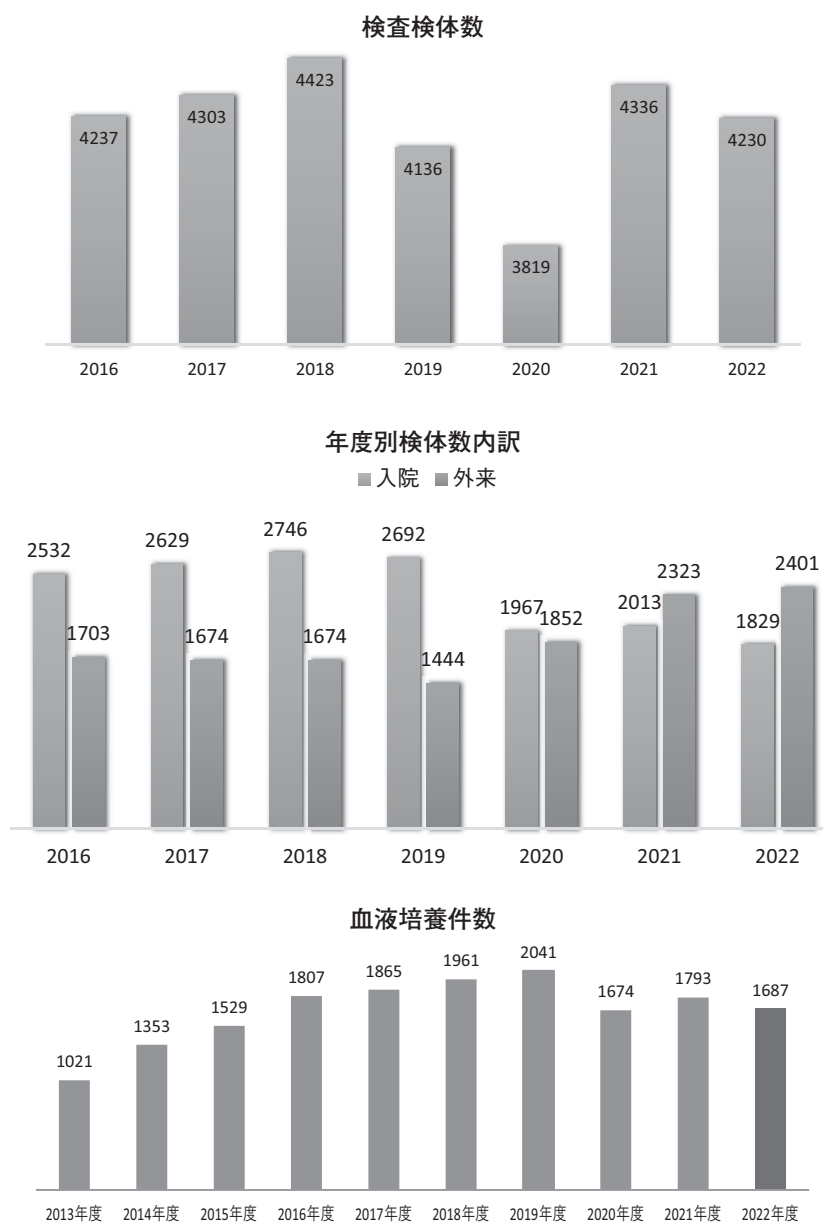
2022年度の特定抗菌薬使用状況は年間の合計でカルバペネム系抗菌薬が62件（前年比－61件）、抗 MRSA 薬33件（前年比＋3件）となった。月平均での使用件数はカルバペネム系抗菌薬が約5件（前年比－5件）、抗 MRSA 薬が約3件（前年比＋1件）であった。又、特定抗菌薬使用届提出率は100%を維持した。

特定抗菌薬使用件数推移及び、特定抗菌薬使用届提出率推移

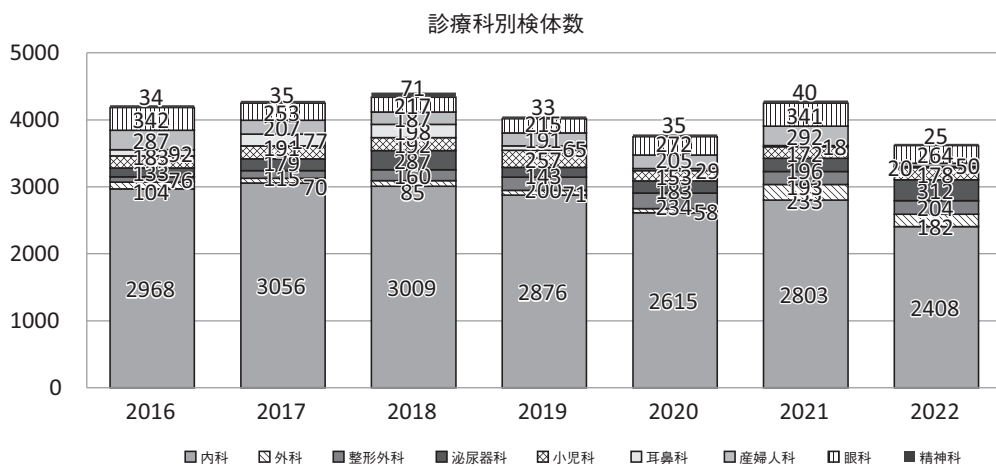
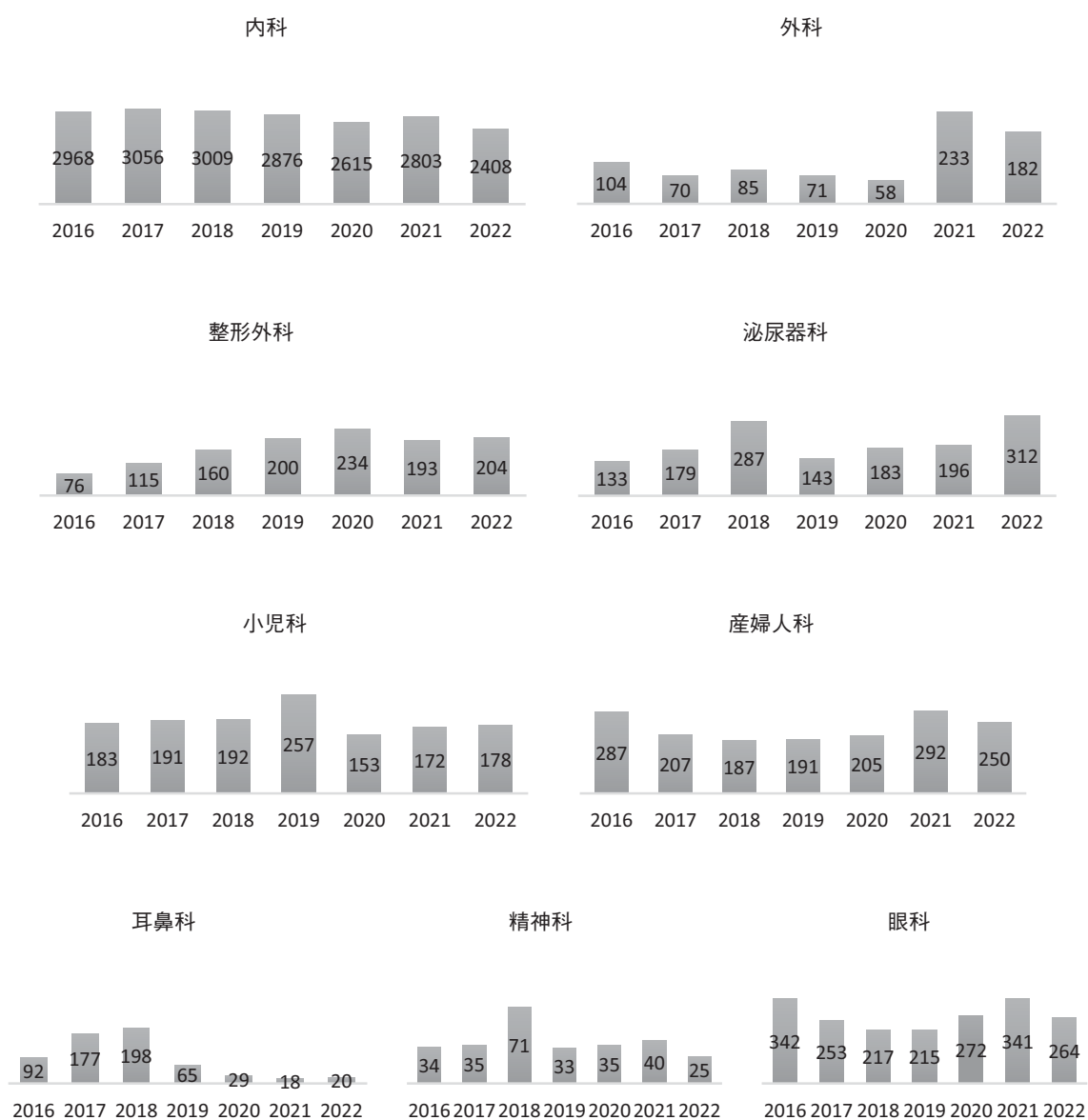


当院の微生物検査の動向

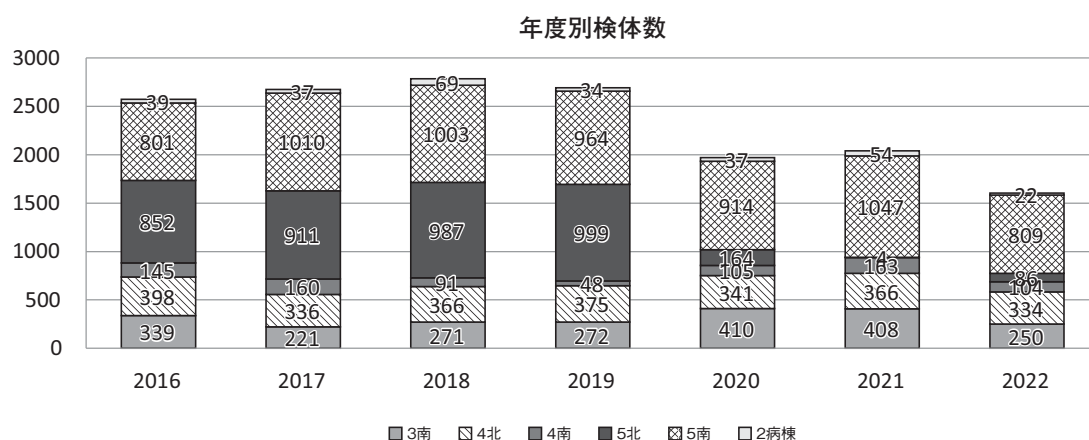
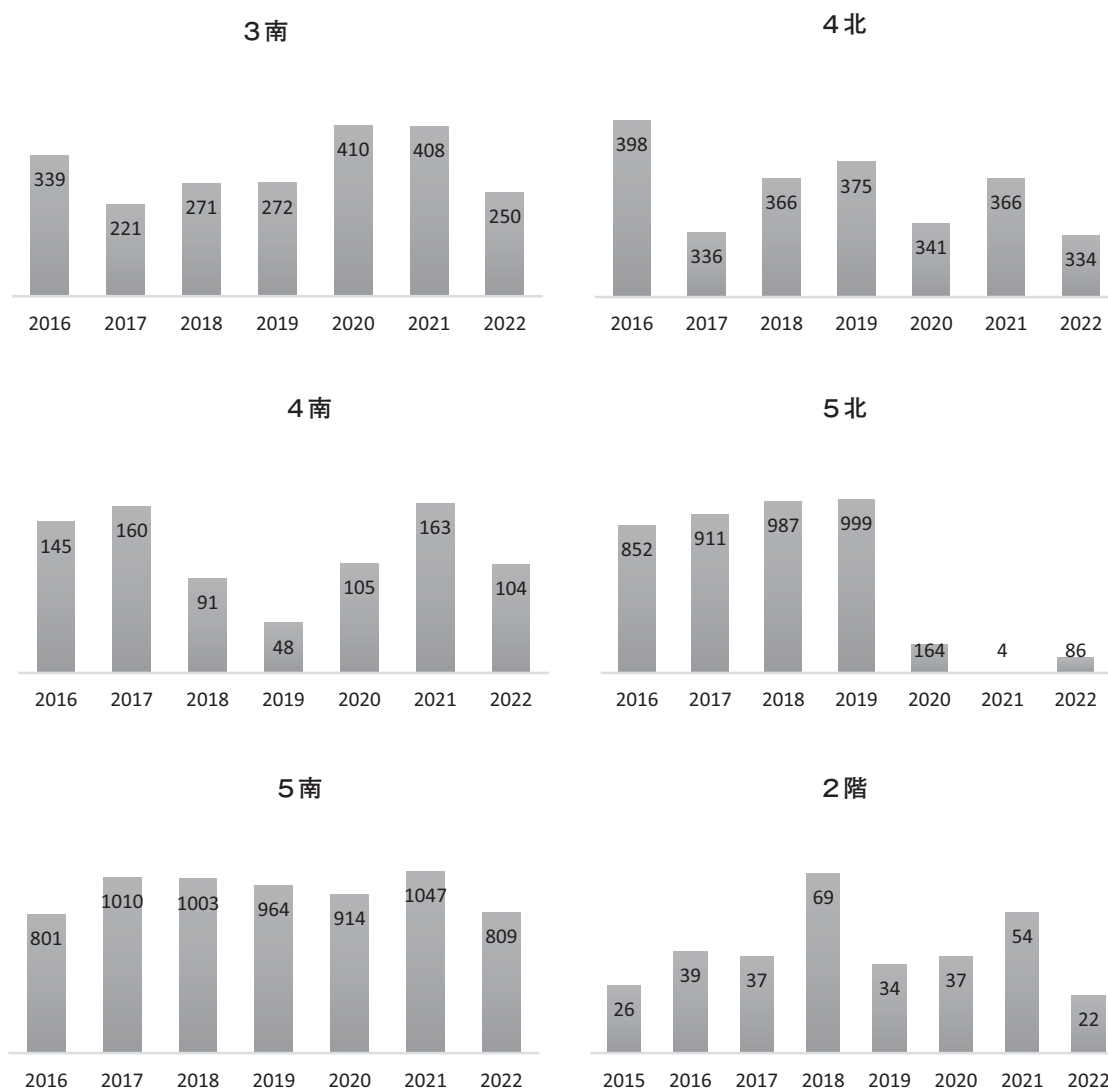
1. 当院細菌検査年間検査検体数



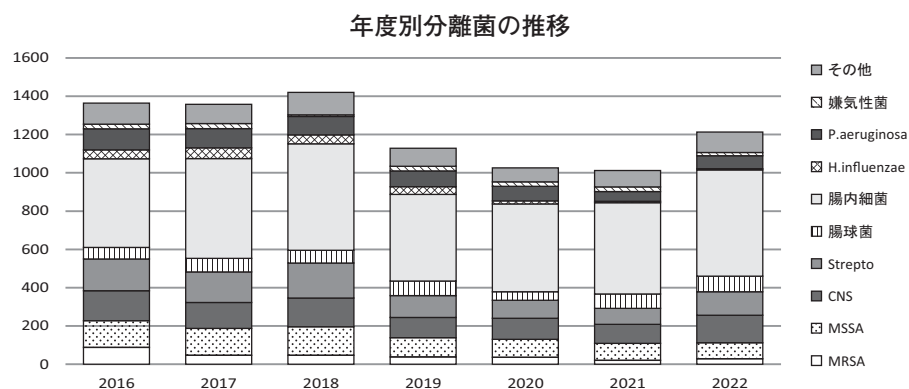
2. 診療科別検体数



3. 病棟別検体数

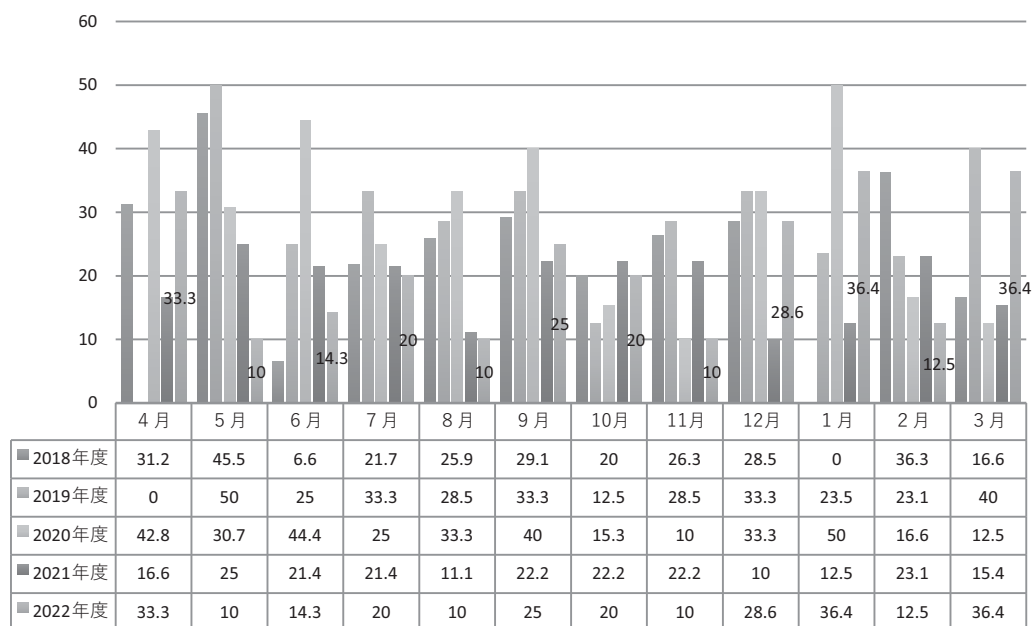


4. 分離菌の年度別推移

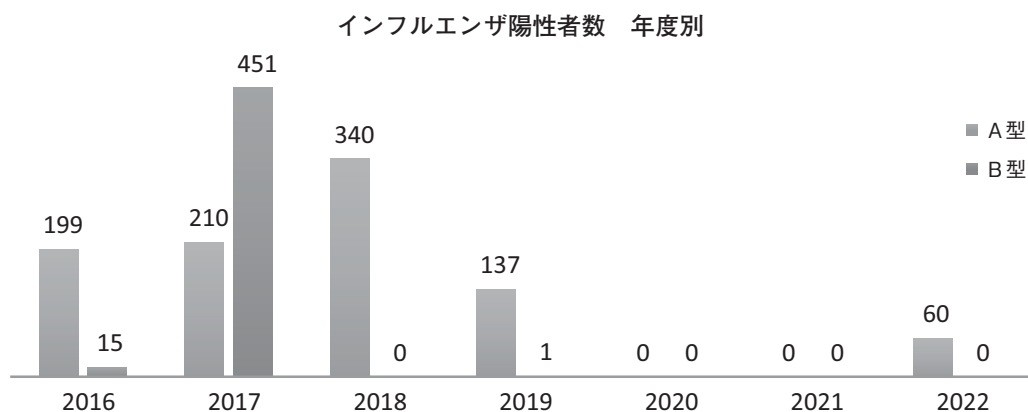


5. MRSA 数

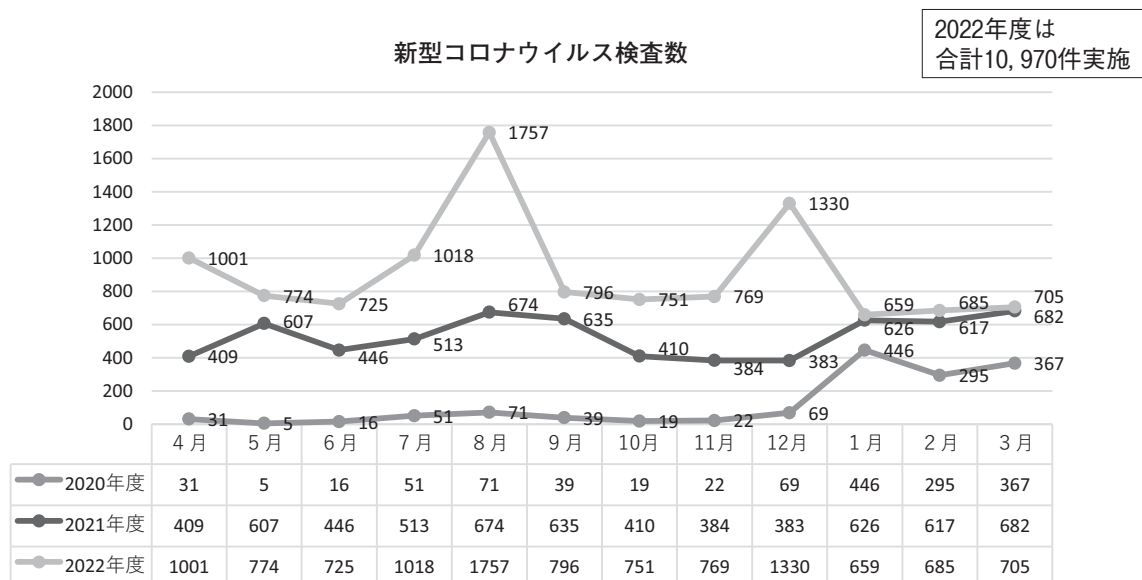
黄色ブドウ球菌 (S.aureus) における MRSA の割合
MRSA% (MRSA/MRSA+MSSA)



6. インフルエンザ年度別患者数



7. 新型コロナウイルス検査数



8. 抗菌薬感受性率（2022年4月～2023年3月）

グラム陽性球菌																
菌名	株数	PCG	ABPC	ABPC/ST	CEZ	GM	ABK	EM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	DAP	RFP	LZD
S.aureus(全て)	112	25%	24%	74%	74%	68%	99%	48%	51%	100%	56%	100%	99%	100%	99%	100%
MRSA	29	0%	0%	0%	0%	79%	100%	19%	30%	100%	17%	100%	100%	100%	100%	100%
MSSA	83	34%	33%	100%	100%	64%	99%	59%	59%	100%	70%	100%	99%	100%	99%	100%
E.faecalis	46	100%	98%	—	—	—	—	18%	—	39%	98%	100%	100%	100%	24%	100%
E.faecium	22	5%	9%	—	—	—	—	0%	—	41%	5%	100%	100%	100%	23%	100%
S.epidermidis	72	15%	15%	36%	36%	58%	—	53%	63%	99%	47%	100%	99%	100%	99%	100%

グラム陽性レンサ球菌														
菌名	株数	ABPC	PCG	CTX	CTRX	CFPM	CZOP	MEPM	EM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM
S.pneumoniae	13	—	100%	69%	77%	92%	92%	77%	85%	85%	92%	40%	40%	60%
S.pyogenes	3	100%	100%	—	100%	100%	100%	100%	—	100%	—	67%	67%	100%
S.galact-Gp B	28	100%	100%	—	100%	100%	100%	100%	—	100%	—	63%	63%	75%

■：感受性率：0～50%

■：感受性率：51～70%

抗菌薬感受性率（2022年4月～2023年3月）

グラム陰性桿菌																		
菌名	株数	ABPC	CEZ	CTM	CTX	CAZ	CFPM	CPDX-PR	CMZ	MEPM	ABPC/ST	AMPC/CVA	PTC/TAZ	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX
E.coli (全て)	285	72%	78%	89%	89%	94%	91%	85%	100%	100%	79%	91%	100%	97%	100%	95%	86%	86%
E.coli	266	77%	83%	96%	96%	98%	97%	91%	100%	100%	82%	91%	100%	97%	100%	95%	91%	91%
E.coli ESBL	19	0%	0%	0%	0%	32%	0%	0%	100%	100%	37%	89%	100%	95%	100%	95%	21%	21%
K.pneumoniae	109	5%	88%	96%	95%	98%	98%	96%	97%	99%	83%	95%	97%	99%	99%	94%	99%	97%
Koxytoca	18	6%	22%	89%	94%	100%	94%	89%	100%	100%	56%	83%	89%	89%	100%	94%	100%	94%
Smarcescens	20	0%	0%	0%	—	20%	65%	5%	60%	95%	0%	0%	25%	100%	100%	95%	95%	90%
Kaerogenes	16	0%	6%	19%	38%	50%	88%	44%	19%	100%	25%	19%	63%	100%	100%	88%	94%	94%
E.cloacae	26	23%	4%	15%	69%	81%	92%	38%	15%	100%	31%	8%	88%	96%	100%	100%	100%	96%
P.mirabilis	29	90%	69%	90%	97%	100%	97%	93%	100%	100%	93%	97%	100%	97%	100%	3%	97%	83%
C.freundii	6	17%	0%	83%	83%	83%	100%	50%	67%	100%	83%	0%	83%	100%	100%	83%	100%	100%

菌名	株数	PIPC	CAZ	CZOP	CFPM	IPM/CS	MEPM	DRPM	AZT	PIP/TAZ	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST	CL
P.aeruginosa	68	81%	81%	81%	84%	84%	97%	97%	75%	84%	81%	97%	—	96%	97%	—	99%
S.maltophilia	7	—	0%	0%	—	—	—	—	—	—	—	—	100%	100%	—	100%	—
A.baumannii	6	—	100%	—	83%	100%	100%	—	—	100%	100%	100%	100%	100%	83%	100%	—

菌名	株数	ABPC	CTM	CTX	CTRX	CFPM	CCL	CDTR-PI	MEPM	AMPC/CVA	ABPC/ST	CAM	MINO	LVFX	CPFX	ST	RFP
H.influenzae	7	86%	71%	100%	100%	100%	57%	100%	100%	100%	86%	86%	100%	100%	100%	86%	100%
M.catarrhalis	3	33%	100%	100%	100%	100%	67%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	67%	100%

：感受性率：0～50% ：感受性率：51～70%

五島中央病院紀要投稿規定

1. 本誌は五島中央病院の機関誌として年1回発行とする。
2. 投稿者は当院の職員とする。但し当院職員以外の者であっても編集委員会の承諾を得た場合はこの限りではない。
3. 投稿論文は医学、薬学、看護学など医療に関係のある学術論文で、他誌に発表されていないものとする。
4. 本誌の内容は総説、研究、症例報告、学術年報（学会・研究会発表及び掲載論文：同年の1月～12月に発表～発行されたもの）、及びその他（随想など）とする。
5. 投稿原稿の採否並びに順位は編集委員会で決定する。
6. 原稿は和文、欧文を問わない。
7. 編集の都合により原文の要旨を変えない範囲内で著者に訂正を求めることがある。
8. 掲載料は無料とし別冊は著者に10部を贈呈する。それ以上の別冊は実費を徴収する。
9. 原稿執筆の要項は次のとおりとする。
 - (1) 原稿は別々の用紙を用いて次のように区分する。
タイトルページ、和文用紙（400字以内）、本文、文献、図（写真）及び表（いずれも手札型以上の大きさ）、図及び表の説明で構成し、要旨にはキーワード（5個以内）を入れる。
 - (2) 本文は原則として、1. はじめに、2. 方法（症例）、3. 結果、4. 考察、5. まとめの各項目に区分する。
 - (3) 原稿は横書き和文ワードプロセッサ（A4用紙20字×20行）で作成する。
その際、専門用語以外は当用漢字、年号は西暦、数字は算用数字、薬品名は一般名、現代仮名遣いを使用し、句読点を正しくつける。FDでの提出も受け付ける。
 - (4) 表はA4用紙に1頁1表ずつとする。
 - (5) 論文の長さは図表を含めて下記を限度とし、規定枚数を越えた原稿は採用しない。
総説：400字×30枚、研究：400字×25枚、症例：400字×20枚、その他：400字×20枚
 - (6) 文献は本文中に引用されたもののみを別紙に一括し、本文中の引用箇所に引用順に肩番号をつける。
（例）神田¹⁾らの報告では・・・
 - (7) 文献の書き方は引用番号、著者名、題名、雑誌名、巻：頁（始頁－終頁）、発行年（西暦）の11頂で記載する。
 - (8) 単行本は引用番号、著者名、書名、（編集者名）、発行所名、発行年（西暦）、頁（始頁－終頁）、の順に記載する。
 - (9) 著者校正は1回のみとし、その際大幅な訂正は不可とする。
 - (10) 学会や研究会などで発表した論文を投稿される場合は、文末にその旨付記する。

原稿提出先：

〒853-0031 長崎県五島市吉久木町205番地 長崎県五島中央病院
五島中央病院紀要編集委員会
T e l : 0959-72-3181
F a x : 0959-72-2881

五島中央病院紀要

第 25 号

発行 令和 6 年 3 月 31 日

編集・発行 五島中央病院紀要編集委員会
〒853-0031
長崎県五島市吉久木町205番地
T E L 0959-72-3181
F A X 0959-72-2881

印刷 株式会社 昭和堂
〒854-0036
長崎県諫早市長野町1007-2
T E L 0957-22-6000

